

(社)日本詩人クラブ 2023年 9月 例会のご案内

—受賞者記念講演—

日時 2023年9月16日(土・第3土曜日)14時～17時

会費500円(会員・会友も)

会場 今井館聖書講堂

詩朗読 & スピーチ

橋本由紀子(島田市) / 松田ゆか(大田区) / 磯崎寛也(水戸市)

受賞者講演

「〈詩〉以外のこと」

第56回日本詩人クラブ賞 山本博道

■プロフィール(山本 博道・やまもと ひろみち)

1949年北海道生まれ。十代半ばから詩を書き始め、謄写版印刷の詩誌『ら・ぼえ一む』『緑の馬』を編集発行。27歳で第一詩集『流れもなく藁の時代の岸に戦いでこの夜、大陸は更けるひとつ恋風』を上梓。これまでに、詩集『風の岬で』『短かった少年の日の夏』『パゴダツリーに降る雨』『雑草と時計と廃墟』『夜のパズール』など17冊。

(気がついたら、年齢的にも、健康面でも、いまから何かを望めるような人生でもなくなりました。東京に出て来て、一人で詩という小舟を操って、時にはライオンの夢も見ながら、怠けもしましたが、それでも何とか生きてきました。そしていま、「しっかり目をあけて、舵をとれ。まだまだ運は残ってるかもしれんさ」というサンチャゴ爺さんに空の上から励まされ、もうひと頑張りしようとしているところです。じつはまだ、どうしても書き残しておかなければならないこともあるので。下船まで、時間はあとどのくらいあるのでしょうか。街の明かりの照り返しが見えて来ました。)

「詩とわたし」

第33回日本詩人クラブ新人賞 北島理恵子

■プロフィール(北島 理恵子・きたじま りえこ)

1962年、東京都新宿区出身。日本女子大学卒業(生物農芸専攻)。40歳過ぎてから詩作を始め、「詩人会議」の投稿欄を経て、本欄に作品を発表するようになる。それと時を同じくして同人誌「冊」に参加し、さまざまな詩人たちと出会い今日に至る。詩集に『三崎口行き』(2011年 ジャクション・ハーベスト)、『ぬり絵』(2015年 版木舎)。受賞詩集『分水』(2022年 版木舎)は第三詩集。詩人会議会員、「冊」同人。東京都在住。

「パブリックな時空」

第23回日本詩人クラブ詩界賞 堀内統義

■プロフィール(堀内 統義・ほりうち つねよし)

高校一年生の冬、愛媛新聞紙上に紹介されていた高校三年生(現在俳人として活躍されている坪内稔典さん)の詩句に衝撃を受け、同時代の詩人たちの詩を読み始める。大学に進学し「早稲田詩人会」に入会。卒業後、同会で出会った友人(一色真理氏)たちとの詩誌「異神」に加わる。1982年に32号で終刊。その後「野獣」(松山)「榎」(川之江)「開花期」(高知)「孔雀船」(東京)「舟」(滝沢)に参加。個人詩誌「漣」を随時発行(現在まで12と遅々たる歩み)。1995年、敗戦から50年を期し「日・韓戦後世代100人詩選集」の日韓同時刊行に加わりソウルでの記念行事に参加。2016平昌(ピョンチャン)東アジアポエムフェスティバルでは基調講演。2017平昌・韓日中詩人祭に招待される。松山市の小粒舎で月一回土曜日に、現在の日本の詩人たちの詩を紹介。多くの方々に詩に親しんでいただけるよう努め、50回を越える。

*例会終了後懇親会を行います。どなたでもご参加ください。

例会・国際交流理事：谷口典子(TEL03-6265-7485)

丹羽京子(TEL090-1107-1199)

NPO法人今井館教会会 今井館聖書講堂

東京都文京区本駒込6-11-15

●JR山手線 駒込駅 南口 徒歩11分

●地下鉄南北線 駒込駅 2番 徒歩8分

●地下鉄都営三田線 千石駅 A4 徒歩5分

六義園をめざしてください。六義公園運動場側です。

